

第4回 初倉地区小中学校再編方針検討委員会 概要

教育総務課

日時：令和3年10月26日午後7時00分～午後9時00分

会場：初倉公民館「くらら」第1・第2集会室

出席：中野委員長（教育部長）、大石副委員長、甲賀委員、大塚寛委員、中村委員、萩原委員、天野委員、山内委員、大塚政委員、村田委員
事務局（鈴木教育総務課長、廣田総務係長、鈴木事務員）

オブザーバー：教育長、沖指導主事

傍聴：3人

1 開会（午後7時～）

2 あいさつ（委員長より）

第4回初倉地区再編方針検討委員会に御出席いただき、ありがとうございます。今回の会議では、9月に実施した保護者・地域住民アンケートの集計結果の報告と、教育委員会に提出する提言書の中身についての協議を行います。特に提言書については、まとめあげていくこととなりますのでよろしくお願ひします。

3 協議事項

（1）今後のスケジュールについて

事務局より資料に沿って説明。

（2）保護者・地域住民アンケート集計結果について

事務局：保護者の回答状況ですが、配布した1,328枚に対して、紙媒体とインターネットによる回答を合わせて508件となり、回答率は38.25%となりました。ただし、提出されたアンケートの兄弟姉妹の合計が801人ですので、児童生徒数で見れば60.31%の意見が反映されています。

地域住民は1,000人に郵送して222件の回答があり、回答率は22.2%でした。

無効回答は38件。なお、締め切り後に届いた回答が8件ありましたが、多くの意見を反映させるべきと考えて有効とし、計730件の回答が得られました。

統合の形態についての保護者と地域住民を合わせた結果から、60.55%の人が施設分離型小中一貫校を選択し、39.45%の人が施設一体型小中一貫校を選んだことがわかります。さらに学区ごとの回答を見ると、初倉小学区で施設分離型を選んだ人が58.98%なのに対して、初倉南小学区で施設分離型を選んだ人は62.58%となっており、若干ですが初倉南小学区の方が施設分離型を希望していることがわかります。この傾向は保護者の結果にも表れています。なお、15歳以下のお子さんがいな

い地域住民の皆さんの結果を見ると、初倉小学区では施設一体型小中一貫校を希望する人が半数を超えていることがわかりました。

3 ページの統合の時期の結果では、全体的に新校舎ができる時期を選択した人が一番多くなっていました。また、二番目に多かった時期は、学区に関係なく、保護者の方は小学校でクラス替えのできない単学級が発生する見込みとなった時期、地域住民は長寿命化の工事が必要になった時期となりました。その他の時期を選んだ方は5%ほどおりました、詳細は4ページに掲載してあります。

自由記述については、資料を二つ用意し、一つは左上に意見124件と記載し、もう片方は同じく左上に共通意見91件と記載してあります。共通意見とは、跡地利活用についての意見、小中一貫教育に対する賛成・不要の意見、今の課題など、選択した統合の形態や時期に関係なく、共通的な意見と思えるものを集約したものです。

この中には提言書を作成する上で重要な課題等が含まれています。ぜひ、参考にしてください。

委員長： 今回のアンケートでは、初倉地区小中学校の再編方針を考える上で、重要な「統合の形態」と「統合の時期」について、保護者と地域住民の皆さんの意見を伺い、統合の形態については、学区を問わず保護者は約65%が施設分離型小中一貫校を選択しているとのことでした。

また、統合の時期については、新校舎ができる時期を選択する人が多いという結果でした。

委員A： この結果をどう捉えたらよいか困惑しています。学校を残したいから分離型を選択したのか、統合するなら一体型を選択したのか、3つとも新校舎にすれば良いのか。南小の人たちは学校を残したいから分離型を選んだのか。

委員B： 統合場所、予算、子供の数の推移、各学校はいつ改築や長寿命化工事をしなければならないのか、といった情報がなく、判断材料が足りていないと思いました。

委員C： 期待の声や前向きな意見がたくさん見られる反面、統合を望まない意見も見られ、自由意見の中には少し過激な発言も見られました。過激な意見の人は分離型を選択している傾向があります。それらを分離型に賛成と決めてしまうと、後で混乱しそうです。

委員長： 小中一体校にする場合はおそらく初倉中学校の所になると思われませんが、小中分離型にする場合はどちらの小学校の位置にするのかといった具体的な話は出てきていませんでした。中学校への距離が近い方が小中一貫教育はやりやすいのではないかということは話されてきましたが、事務局から説明はありますか。

事務局： 今回のアンケートは2回目です。1回目のアンケートを実施するとき、情報が浸透していないこと、小中一貫教育の定義が深く理解されていないことがありました。また、様々な検討を踏まえ再編計画の中で、初倉地区ではまず初倉小学校と湯日小学校を統合し、時期等は未定であります、初倉小学校と初倉南小学校を

いずれ統合するということが既定の事実であり、本委員会もその事実に基づいて始まりました。統合の時期、形態は未定であり、委員会の中で検討していくことが当該委員会の趣旨であります。

今回のアンケートをまとめてみて、当初より一方的な反対意見は減ってきているのかなと感じています。周知が足りていなく、基本的な理解が欠けていることによる反対は少なくなったと思います。アンケートで統合の形態について選択してもらいましたので、まず統合の形態を決定して、場所等についてはどちらにしても様々な課題が出てくるので、有効に活用するにはどこにするべきかを検討していければと思います。データの不足については申し訳ないと考えております。学校を単独で改築する際に係る費用につきましては、島田第四小学校では設計の段階から様々な調査費用を含めて、およそ34億円から35億円。仮の試算ですが、初倉中学校のところに土地を買い増しして、必要な面積をそろえた上で新校舎を建てる場合、最低76億円くらいかかるだろうということは前回の委員会で説明させていただいたとおりです。児童の増減についてですが、令和7年度頃までは、初倉南小学校については微増減を繰り返し、令和8年度からは減少が続くと言われております。初倉小学校については、微減少が続くと言われております。

委員長：事務局からは、まず統合の形態と時期を決め、費用等を含めた詳しいことは話し合いで決めていくといったことでしたが、それでよろしいでしょうか。

委員A：決まればいいと思います。

委員D：小中一貫教育を進めるのであれば近い方がベターですが、教員が中学校から小学校へ行く際、どちらの小学校でも車での移動となり、大差ないというのが正直なところです。私は以前に藤枝市で小中一貫教育を進めていたのですが、小中学校を行き来する際は、時間割が違うこともあり、前後の時間を空けておきました。

委員E：1回目のアンケートの時は小学校同士の統合については反対の意見が多かったが、学校の本部役員会で小中の統合について話をした時は、そういう考えもあるのかといった反応で、そこから、考え方が変わっていく様子が窺えました。

アンケート結果では施設分離型小中一貫校になると思いますが、初倉小学校の所に新たに作ると35億円くらい、初倉中学校の隣に作ると76億円くらいかかり、金銭的な面で初倉小学校の所に決定となるのはいかがなものかと思えます。

初倉地区では、来年度から学校運営協議会や学校運営目標を一つにするなど、今できる小中連携をしていこうと思っています。中学校の隣に小学校があると費用は高くなるが、かなり先が見えてくる話になると思いますので、施設分離型に決まった場合、どちらの土地に小学校を建てるかを考えていくことが大切だと思います。

事務局：初倉中学校の隣に小学校を建てるのと76億円くらいかかるのお話がありましたが、それは初倉中学校の敷地に小中一体校を建てた場合の金額です。視察に行った浜松中部学園のように一つの建物を建てた場合、周辺の用地の買収等にかかる費用も含めおよそ76億円ということです。

委員B：初倉中学校の道路を隔てたところに施設隣接型小中一貫校を建てることは可

能でしょうか。

教育長：新たな魅力が生まれる案だと思えますが、中学校周辺の状況を考えると、まとまった土地を確保するのはかなり難しいと思えます。それよりは初倉中学校の敷地の中に小学校を建てて、その他の施設を買い増した土地に建てる方が現実的だと思います。理想と現実をみてどこに着地点を求めるかについて、初倉地区の様子を分かってらっしゃる委員の皆様のご意見をいただきたいです。

委員F：予算や土地のことなど総合的に考えていかなければならないと思えます。十分な面積を確保できれば、施設一体型が良いと考えていましたが、窮屈に感じてしまうのであれば本末転倒です。理想としては隣接型ですが、その可能性については知る必要があると思えます。

委員G：再編について2年前から話し合ってきて、初倉中学校の場所に施設一体型が一番良い形かなと思えます。土地については、農業をされている方の高齢化が進んでおり、どうしても農地は譲れないという人はいないと思えますし、ましてや教育のためとなれば、譲っていただけるのではないかと思います。代用地についても大きな土地がありますので、方針をある程度決めて、皆さんに賛否を問う方が早いと思えます。

安全の事も考えると新しい校舎を建てた方がいいし、76億円だしていただければ、こんないい話は無いです。通学の面も、スクールバス等で解決できると思えます。

委員H：地域と保護者が教育に携われるのが初倉地区の良さで、未来につなげていきたいと考えています。保護者の方々と話をしていく中で、周知が足りていないと実感しましたので、具体的な案を提示した方が、意見がまとまりやすいと思えます。初倉地区の将来に夢を持てる様になれば嬉しいです。

委員I：初倉地区の学校の教育方針、教育目標が揃い、明確になっていくと、社会教育の点からも学校、保護者、地域をどのように繋げていけばよいか明確になると思えます。公民館の立場からしても、今まで以上に社会教育に力を入れていけると思えます。分離型でもできないことは無いと思っています。

委員A：お金や土地の問題は避けては通れませんが、地域や保護者の方々に賛成していただけないと、今ある初倉としてのメリットは損なわれてしまいます。どういう形であれば、子供たちにメリットがあって、地域や保護者の方々に賛成していただけるのかを考えた方が早いと思えます。もともと反対だった人にメリットを感じてもらえるようになれば、協力し、支えてくれる人が増えると思えます。

委員B：自治会などで話をしていると、なぜ今統合しなければいけないのかといった声を耳にします。1学年20人以下になってから統合する方が、納得してくれると思えます。アンケートの中に、「一度に小中一貫教育を進めると混乱する。」や、「施設の統合の前に、カリキュラムだけでも先行して小中一貫教育をしたらよいのではないか」といった意見がありました。施設の統合ではなく中身が大切だとアピールしても良いと思えます。様々な意見があったので、子供の人数を第一に考えないと受

け入れてもらえないかもしれません。

教育長：もう一つの視点を持たなければならないと思います。前回の委員会で校舎を改築して、耐震性能が向上した安全な校舎で子供たちが過ごせることは大切という意見がありました。統合することによって改修ではなく、改築になる可能性が高くなります。統合によって教室数が足りない場合は文部科学省から補助金が出ますので、より安全な教室で過ごせるといったメリットがあります。改修より改築の方が安全性は高くなるので、できれば改築にしたいと思っています。第一小学校は、統合するため文部科学省から改築の許可をいただきました。

委員B：初倉地区の校舎はいつごろ改築の時期を迎えますか。

事務局：工事等の具体的な時期についてはお答えすることができません。理由は島田市の小中学校は昭和50年代に建設したところが多く、同時期に何校も建てられました。初倉地区小中学校も例外ではなく、各校の築年数は初倉中学校が41年、初倉小学校が40年、初倉南小学校が38年です。全国的にもこの時期に集中していますが、現状建て替えを同時期にできる財政力が各市町に無いため、国から長寿命化という方向性が示されました。新築から20年で中規模改修、40年で長寿命化工事、60年で中規模改修、80年で建て替えをするといった流れになります。動かなければ初倉地区小中学校はほぼ間違いなく長寿命化工事になると思われれます。また、人数が減ってからの統合では、クラス数が足りるため国からの建て替えに対する補助は無くなり、やはり長寿命化工事の対応になると思われれます。統合して2クラスで済む場合は長寿命化、3または4クラスであった場合は改築が可能になると思います。初倉中学校の近隣に小学校を建てる場合、小学校は新築、中学校は長寿命化になると思われれます。長寿命化工事の時期については、築年数が重要なポイントになりますが、校舎の構造によっても劣化の進み具合に差が出てきます。現在の計画では、20年で10校程度を長寿命化工事で対応しなければいけないと考えています。予算の関係で時期が延長されたり、長寿命化工事の予定から改築に切り替わることもあり得ると思われれますので、長い期間で考えていかなければなりません。

委員A：予算の関係で実現できるパターンが決まってくるのではないですか。

事務局：施設一体型小中一貫校が実現できる校舎が初倉地区にはありませんので、新築になると思われれます。分離型小中一貫校については、中学校に入学する生徒数は変化しないと思われるため、中学校については長寿命化工事になると思います。小学校については統合する時期によっては新築の校舎になると思います。

委員長：このまま長寿命化工事で対応するのか、統合をして先進的な機器が揃った安心安全な校舎で授業を受ける方が子供たちにとって良い方向と考えるのか、だと思います。

委員G：中学校の体育館は、大柳、中河、井口3町の避難所にもなっております。災害時は建築士が3名ほど来て、建物が安全か確認できるまで避難所として使用することができません。そのため地域住民の中には体育館は耐震性に問題があると受け止めている人もいます。新しくした方が子供にとっても安心安全だと思います。

教育長：統合をすれば改築になりやすいのは先程も話したとおりです。統合をしない場合は、古い校舎から改修していかなければなりません。初倉地区よりも古い学校が市内にはいくつかありますので、統合をしないという意見が地域や保護者の大多数となった場合は、初倉地区よりも優先しなければならない学校があることはご理解ください。

また、初倉中学校周辺の農振地域の除外は令和8年度以降でないとは手続きができません。そこから校舎の設計、建築をして完成は早くても令和15年になります。望ましい教育を実現するための結論を出すには、時間的な制約、予算のことなど様々なことを考えていかなければなりませんので、この時間の中で結論を出すには難しいと思います。今回の委員会で話されたことや、アンケート結果をPTAや自治会で周知して、意見を聞き、第5回目の委員会を開催した方が良いと考えますが、いかがでしょうか。

委員B：地震が発生すると体育館が使えなくなるということでしょうか。

委員G：体育館の被害状況を建築士が判断し、状態によっては避難所として立ち入ることができないということです。

委員A：築年数は関係ないということですね。

委員G：築年数は一つの判断材料になると思います。

事務局：初倉地区3校の体育館は耐震の面では問題ありません。

委員長：事務局からアンケートの結果をPTAや自治会に持ち帰り、再度意見を聞いてくるという話がありましたが、これについてはいかがでしょうか。

委員A：前回保護者に問いかけた時に、こちらの想定よりも理解が遅れていると感じましたので、いくつかパターンを提示して問いかけた方が、意見を集めやすいと思います。

事務局：具体的にどういったものを提示すれば、問いかけやすいか、判断しやすいかを、ぜひ教えてください。

委員D：まずはパターンを整理して、完成した姿をイメージできる方がしっかりとした考えをいただけたと思います。さらに、パターンごとにメリット、デメリットを揃えてから、同じものを、学校や自治会にもっていかないと伝え漏れなどの差異が生じてしまうと思います。

委員A：「小中一体校になるケース」、「小中分離型の場合は小学校の統合は必須で、隣接する場合、小学校は新校舎、中学校は長寿命化工事になるケース」、「このままで長寿命化工事をするケース」が挙げられると思います。それに対して、時期、メリット、デメリットを挙げれば話しやすいのかなと思います。「この3つのうちのどれかを選ばなければいけない時期が迫ってきていることを前提にしたら、どれを選びますか？」というような聞き方をすれば、具体的な意見や回答が返ってくると思います。

教育長：パターン化についてどこまで提示すればよいのか迷うところがありますが、例えば、一番早くできるパターン。まず、小学校が統合する場合ですと令和11年く

らいに新しい校舎ができる。次に、小中一体校にする場合は令和15年くらいに初倉中学校のところに新校舎。そして、長寿命化やクラスが20人以下になるまで待つとなるといつになるか分からない。といったパターンが挙げられると思います。

また予算のことについても難しい問題があります。小中一体校にすると76億円程度で、土地収用によってはさらにかかるかもしれません。小学校と中学校を隣接する場合はさらに広い土地が必要になり、小中一体校よりも高くなるかもしれません。そうすると開校時期がいつになるか見えてこないと思います。時期と建て方などの例を示しながら、皆様に聞いていただくことはできるかもしれません。

このアンケートにもありますが、メリットとデメリットについては、こちら側のメリットが人によってはデメリットに感じる場合もあります。確実に明確なものを除き、メリットとデメリットを細かく整理して示すことについては難しいと思います。皆さんの議論に任せたいです。

委員B：メリット、デメリットについては立場による個人差が出てくるので見方によって全く違ってきます。

教育長：個人差についてお話がありましたが、例えば、今回の初倉小アンケートには、「6時40分に家を出て遠距離を通学している」という意見も書かれていたので、統合する学校にスクールバスを出せば距離の問題が解決されるわけではないです。

委員A：細かいメリット、デメリットの話をすると難しくなってしまうので、統合の時期と形態のそれぞれに対して「どんな良いことがあるか」、「どんな明るいことがあるのか」と聞かれたときに一つ、二つのメリットを出すだけでも良いのではないのでしょうか。

前回のアンケートの時よりは、期限が迫ってきている状況であると伝え、選択肢を提示してそれぞれのメリット、デメリットを説明した方が、どれを選ぶか回答しやすいと思います。

事務局：確かに、大まかに想定されるメリット、デメリットの方が、質問も回答もしやすいと思います。ただ、メリット、デメリットが具体的でも、抽象的でも捉え方に個人差ができてしまうので、面積や児童生徒数といった数字で出せる情報ならば、比較しやすいと思います。冒頭のご意見の中で、小中一貫の教育を進める中での地理的関係のお話がありました。島田市全体の子供たちのために小中一貫教育を進めていく中で、初倉地区をモデルとしてどのような環境が適しているのかを知るのも1つの狙いです。具体的な案を聞くのは良い方法だと思いますが、できるかどうかは別として条件をなくし、子供たちのために小中一貫教育をするにはどういった環境が良いか考えるのも一つの案だと思います。どの形でも課題は出てくるので、こういったことを問いかけるのも良いと思います。

委員C：初倉地区小中学校長の話合いの中で9年間かけて初倉地区の子供を育てていこうという話をしました。今初倉小学校と初倉南小学校が児童数の合計は700人くらいで10年後も極端に減ることは無いと思います。そのため、初倉小学校の敷地よりは初倉南小学校の方が広いかなと思いました。

事務局：面積について島田第四小学校と比較をさせていただきますと、校舎の面積は、島田第四小学校が8,927㎡、初倉小学校が9,079㎡。運動場の面積は、島田第四小学校は広い学校ですが12,170㎡、初倉小学校が13,911㎡となっております。

委員A：それは現在の島田第四小学校の児童数の場合で、初倉小学校と初倉南小学校の児童数を合わせたら島田第四小学校より子供1人あたりの面積が減ってしまうと思います。

委員E：統合して駐車場が十分に確保できないと、授業参観を分散して行わなければならないので、課題の一つとしてお伝えしておきます。

聞くことは3つくらいにした方が本部会議で今までよりも良い意見が出てくるのかなと思います。

委員長：選択肢を簡単に整理することはできそうですか。

事務局：委員の皆様の見解の中で、その方向性で良いとなればまとめていこうと考えております。

委員長：事務局がまとめたものを、まず皆様に見ていただくことになると思います。

委員I：前半の発言で小中一貫校に向けて社会教育として何ができるかについて考えをお伝えしましたが、後半の議論は施設をどう設置していくかに重きを置かれていました。そのため、小中一貫教育の良さについて話すのか、一体校か分離校かのような施設の話をするのか、分からなくなりました。

委員D：初倉地区小中学校長の話合いを通じて、その都度状況でできる小中一貫教育はなにかを考えながら、可能な範囲で授業交流をしていこうと思っています。

委員長：小中一貫教育については皆様にご理解いただけているということでしょうか。では、事務局でまとめたものをもとに各委員には保護者や地域でお話ししていただくということでお願いします。提言書作成については、方向性が決まっていないため、本日はここで終わらせていただきます。最後に事務局からその他連絡事項はございますか。

事務局：パターンをいくつか作成し、それをもとに保護者や地域で話していただくということで、準備を進めていきます。アンケート結果と今回の会議録については周知していきたいと思いますので、内容確認についてご協力をお願いします。

委員長：いろいろなご意見ありがとうございました。本日はここで終わらせていただきたいと思います。ご協力ありがとうございました。

4 閉会（～午後9時00分）